

令和3年度第2回阪南市子ども読書活動推進会議

開催日時	令和4年3月4日（金） 午後2時00分～午後3時15分	
会議場所	阪南市防災コミュニティセンター6階多目的室	
出席者	会 長	森本 典子 （阪南市みんなの図書館を考える会）
	副 会 長	両口 通寛 （生涯学習部学校教育課）
	委 員	後藤田 郁子 （市民公募）
	委 員	東堂 美幸 （子どもNPOはらっぱ）
	委 員	置田 萌香 （阪南市社会福祉協議会）
	委 員	井上 和代 （阪南市子ども文庫連絡会）
	委 員	下林 奈央 （鳥取中学校）
	委 員	宮元 早苗 （はあとり幼稚園）
	委 員	金子 佳代 （子育て総合支援センター）
	委 員	若野 美幸 （こども未来部こども家庭課）
	委員代理	佐藤 麻侑 （健康部健康増進課）
	委 員	秋山 秀子 （生涯学習部生涯学習推進室）
	委 員	加藤 靖子 （生涯学習部図書館）
事務局	図書館主幹	森下 喜代子
	図書館総括主事	籠谷 早織
欠席者	委 員	頭師 康一郎 （市民公募）
	委 員	大塚 尚子 （はんなん子育てネットワーク）
	委 員	福井 貴子 （泉鳥取高等学校）
	委 員	岡田 勝志 （朝日小学校）
	委 員	隅田 恭子 （尾崎保育所）

事務局	<p>令和3年度第2回阪南市子ども読書活動推進会議を開会する。本年度第1回会議は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面開催となった。本日、第2回会議では、報告いただいた取組みと結果を各委員より伺い、阪南市子ども読書活動の発展につなげたい。</p> <p>それでは、ここからの議事進行を、森本会長にお願いする。</p>
会長	<p>本年度の取組みと結果を各委員からお願いしたい。質問及び感想があれば、その都度で受け付けする。</p>
案件1	<p>令和3年度 子ども読書活動推進の取組みについて 取組みの報告及び質疑</p>
委員	<p>留守家庭児童会は、本市小学校8校すべてに設置しており、保護者が就労している家庭の児童を対象に、平日は午後7時まで、土曜日は、午前8時から午後7時まで保育を行っている。毎月、家庭読書の日をホームだよりに掲載し、PRしている。</p> <p>図書館からの団体貸出の利用をしている。支援員による読み聞かせや児童による読み聞かせ等、毎日読書の時間を設けている。本購入の予算で、児童からリクエストを受けた希望の本を購入したり、図書館のリサイクル本を活用したりしている。</p>
委員	<p>家庭読書の日でのPRとして、具体的にどのようなことを行っているのか。</p>
委員	<p>毎月、ホームだよりで「毎月23日は家庭読書の日」とであると、周知している。</p>
委員	<p>効果は、どうか。</p>
委員	<p>実際に家庭での読書を行えているかは、聞いていない。</p>
委員	<p>今後、PRの効果を検討していくのか。</p>
委員	<p>年2回、保護者アンケートを行っており、その時に家庭での読書の取組みを聞くことは、可能である。</p>
委員	<p>保健センターでは、welcome赤ちゃん事業を初めて親になる方を対象に行っている。</p>

7月5組（9人）、10月6組（12人）、2月9組（18人）の参加があった。図書館で借りた本と施設にある本を活用している。

こんにちは赤ちゃん訪問の人数は、令和3年8月対象児まで92人、令和3年9月から令和4年2月まで計118人である。

ブックスタート事業は、4カ月児健診の最後に図書館より本を渡してもらっている。令和3年10月から令和4年3月まで計136人の参加があった。

年3回、赤ちゃん相談における絵本の読み聞かせを実施している。

7月5組（10人）、9月5組（10人）、2月7組（14人）の参加があった。

委員

ブックスタートを通して、絵本の大切さを知ってもらえる機会であるため、継続が必要な事業である。

委員

子どもNPOはらっぱの事業としては、本を題材とした舞台鑑賞を行っている。

通年事業として、ふれあいホームにて2カ月に1回、未就園児親子向けのお誕生日会で読み聞かせやミニシアターを実施している。子育て総合支援センターではリトルはらっぱを月1回実施し、親子での工作や読み聞かせの時間を設けている。絵本は、いつでも自由に見てもらえるようにしている。コロナの状況により参加者が減っている。舞台も大人数でのイベント開催が難しかった。

委員

各保育所においては、保育の中で絵本を取り入れた活動を行っている。

読み聞かせや紙芝居を楽しんでいる。感染対策を実施しながら、開園している。0歳児から本との関りがあるため、絵本に興味を持つ子どもが多く、今後にも繋がっていると思う。毎年2月、市役所ロビーにてひな祭りの展示を行っているが、今年は他の行事と重なったため、文化センターのエントランスにて実施した。保護者は働いているため、平日17時閉庁の市役所ロビーでは、子どもに見に行きたいと言われても、見に行けない方が多かった。土日や夜も開館している文化センターで行ったことにより、保護者に喜んでもらえ、効果があった。今後も継続していきたい。

委員

子育て総合支援センターでは月2回1時間から2時間、親子教室を実施している。最後には、必ず絵本タイムを作っている。その中で、年齢層や季節にあった本を準備している。

コロナの状況により普通の絵本ではなく、図書館で大型絵本を借り、人とのスペースを設ける工夫を行った。

毎月、地域のボランティアにより、おしゃべりサロンにおいて、絵本の読み聞かせや本の紹介等を行っている。参加人数は、増えてきている。

年1回、絵本講座を実施している。今年は、9月に絵本作家の方を招いた。コロナの状況も踏まえ、部屋の換気や消毒、人数制限を行い実施した。20～30組の参加があった。スクリーンを使用し、絵本の楽しさ等を広くお話しくださった。コロナ対策をとりながら、継続していきたい。

委員 絵本講座については、大人向けに話をされるのか。

委員 親子を対象としているため、歌遊びや体を動かす遊びもある中で、絵本コーナーもあり、親子で楽しめる講座となっている。

委員 予算は、どうなのか。

委員 大阪府新子育て支援交付金を活用して行っている。

委員 図書館は、コロナの影響で休館期間があり、まん延防止等重点措置期間は、おはなし会や紙芝居上演も休止しているため、今年度は残念な部分がある。

第3次計画の目標である「本の楽しさを共有する」を推進するために力を入れる予定であった「絵の本ひろば」の学校での開催も、コロナの感染防止のため、できない状態が2年続いている。今年は12月に小ホールで行い、公立幼稚園に出向いてもらった。

来年度、この状態が続いてたととしても、工夫して少しでも機会を作って行きたいと考えている。

委員 コロナ禍でも何ができるかと考えながら事業の実施を行った。園では毎週、絵本の貸出等を行っている。今年、消毒機の設置によりコロナ禍でも本の貸出等を継続できている。

各クラスの担任が本の充実を行っている。地域のボランティアによるおはなし会は、まん延防止期間中は、回数を減らして実施した。

絵の本ひろばも実施でき、保護者に好評であった。

委員 自分が勤務する中学校においては、この2年で子どもたちが本を読む量が減少した。昼休みに図書室を開放し、図書委員が貸出等を行っていたが、コロナの状況により中止して、2年がたつ。図書委員の活動内容を知らない子どもたちがいる。

タブレット端末の導入により本では集められない量の情報が簡単に調べられるようになっており、調べ学習で本をどのように活用してもらえるか、今後、考えていく必要がある。

委員

緊急事態宣言により2～3カ月文庫を閉めていた。閉めていたことによつて、今まで来ていた子どもたちが全く来なくなった。以前であれば、小学校にチラシ等を持参していたが、コロナの状況によりチラシ等の持参も難しくなった。タブレットを使用し、リモート文庫も試行している。

委員

地域福祉活動もコロナ禍で影響が大きく、集まれない中でどのようにつながり続けいくか新しい事業を始めるかを考えている状況である。カフェやサロンが40か所ある中、2月中旬時点で8か所は再開した。

まちライブラリーの運営は、できていない状態である。他の事業においても現在、実施できていない状況である。

委員

特に力を入れて行った取組みは、本の配置場所がわかるような図書館マップを委員会の生徒と一緒に作成したことである。

国語の教科書に掲載されている関連図書のテーマ別展示や読書が苦手な子どもたちにも本に興味をもってもらうため、字の少ない本等の展示を行った。

過去の新聞も手に取りやすいよう新聞ラックを作成し、新聞と記事に関連する本を展示した。

全校において、教員と学校司書の連携、授業等で必要な図書について、レファレンスカードを用いた取組を行っている。

読書啓発活動において、コンクールへの参加を行っているところもある。

国語の授業の一環として、3学期に小学5年生が小学1年生に読み聞かせを実施したところもある。

学校司書は、調べ学習のための資料の不足分を市立図書館や他市の図書館より借り入れを行っている。

学校司書と図書委員会の生徒と一緒に空きスペースを活用し、机や椅子の配置を行い、学校図書室より数十冊の本も設置し、生徒が自由に座って読めるくつろぎの空間の設備を行った。

年2回、授業中(50分間)に読書の時間を設けた。

教職員と委員会の生徒による本の紹介冊子の発行を行っているところもある。

中学校図書館を小学生および小学校の保護者に月2回程度開放している。

中学生が作成した絵本の紹介ポップを小学校の学校図書館に展示しているところもある。

新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、年10回計画していた学校図書館専任司書研修を予定どおり実施した。10回の内、1回はオンラインにて実施した。

委員

生徒と先生の交流の場が必要と感じる。制約がある中でできる企画を考えている。

職業体験をすることで、生徒が普段の学校では見せない表情を先生たちは感じることができる。少子化が進む中でも必要な活動である。

会長

他にないか。

案件2

その他

委員

今年、自治総合センターのコミュニティー助成金により更新した新自動車文庫の運行方針について説明を行う。

旧車両は大型車両で約 5000 冊積載し、図書館から 2 キロ以上遠方の小学校や地域を巡回場所としている。自動車文庫が走り出した当時は、学校図書館は整備されておらず、学校図書館専任司書も配置していなかった。そのため、自動車文庫の巡回場所は小学校を中心としてきたが、現在は学校図書館専任司書により小学生の読書環境は大きく改善された。このたび、小型の新車両買い替えに際し、運行方針としては、自力で図書館に来館困難である幼児や高齢者をサービス対象と位置づけることで、助成金を得た。

軽トラック改造で 500 冊積載と以前の 10 分の 1 の冊数となるふれあい号ミニは、幼稚園・保育所・認定子ども園、高齢者施設やまちなかサロン・カフェ、障がい者施設等に出向いての貸出を中心とし、小学校へは定期巡回ではなく臨時巡回で対応する予定である。

ただし、市立図書館として子どもの読書を応援し、子どもたちに直接サービスする学校図書館をサポートするため、令和 4 年 5 月から全小中学校への予約本配送を開始する予定である。

なお、新たな取り組みとなることから、4 月から 6 月は試行期間として、よりよい時間帯や追加の巡回場所も検討していきたい。今日、会議にご参加の皆様もこのふれあい号ミニを、子ども読書活動の推進に使っていただきたい。月 1 回の定期巡回の他、イベントの一部として、絵本を積んだふれあい号ミニを招いて本をかりてもらおうという臨時巡回は、日時の希望を図書館にご連絡いただき、調整できれば出向くことができる。

もう一点のご報告として、2 月 5 日から開始した電子図書館は、本日で 1 カ月となり、貸出点数は 577 点、利用された方の数は 123 人となる。著作権切れの無料コンテンツ約 3 万タイトルと新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 600 万円により、約 3000 点の電子図書を購入した。子ども向きの本は、絵本や読み物、図鑑、またナレーション付きの英語絵本が約 400 冊ある。

図書貸出券があれば、来館せずとも利用できる手軽さがあり、多くの方に読書の選択肢のひとつとして広めていきたいと考えている。

会長	他にないか。
会長	以上をもって、令和3年度第2回阪南市子ども読書活動推進会議を終了する。
事務局	次回の令和4年度第1回子ども読書活動推進会議は令和4年6月を予定している。 なお、皆様の任期は令和6年3月31日である。